

研修会のあとは、3つのテーブルに分かれて座談会を行いました。テーマは「ワーコレの魅力とミッション」。事前に行った各事業所へのアンケートでは、ワーコレの抱えるさまざまな課題とともに、ワーコレを続ける意味、他では得られない魅力も見えてきました。

ワーコレを知るためのアンケート結果

①ワーコレワーコレと出会ってよかったこと、魅力は？

- ・働き方を自分たちでつくれること。分配や時間の使い方が必要な託児の仕組みなどを創出できる面白さがある。反面、その意思形成に時間とエネルギーが必要。
- ・なんといっても 雇われない働き方。ミーティングで互いに納得できるまで話し合い、自分たちで考えて決められること。一人一員の決定権。上司に命令されて動くのとは違って、自分たちの意思の上でやりたいことが何でもできる。やらされ感ではなく、能動的に働けるのが魅力。
- ・独りだけでないこと。仲間、共感者がいること。やり遂げた時に満足感があること。一般企業ではふりな人でも仕事に参加できる。
- ・主婦が日常生活では経験できない課題や様々な人たちとの出会い。魅力ながら社会のお役に立てる誇り、メンバーとの絆。自分の人生を豊かにする喜び。
- ・自主運営のため、大変なこともあるが、やりがいもある。様々な年代の人たちとの交流が楽しめた。
- ・自分の可能性を広げ、実現できるチャンスがある。
- ・それぞれの考えをぶつけあう中で、新しい考え方や共感できる考えに出会うこと。世界が広がった。
- ・同じ思い・目的を持つ仲間と共に、社会に働きかけ、地域や社会に貢献できる活動ができる。自分が運営した企画、アイデアが実現できる。自己実現。
- ・運営をメンバー全員で考え、実行すること。互いの個性を認め合い、助け合いながら働くこと。

②意思形成・情報共有はどのように？

- ・十分とは言えないが意思形成に協力している。ファイルはPCのドロップボックスで共有。独自のLINEグループも利用。
- ・ミーティングの他、掲示板での通知。日々の申し送り。
- ・議事録などに記録を残す。
- ・毎月1回定例会議。毎日の情報伝達はノートに記入。
- ・月1回の全体ミーティングと毎週の引継ぎミーティング。日誌での引継ぎ、ミーティングリストで情報共有。
- ・ちょっとしたことはLINEで共有。
- ・ランチ会議（ミーティング）→役員会（デボー・デリカ）→マネージャー会議・デリカ会議→理事会

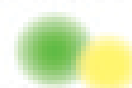
③これから立ち上げるワーコレへの支援について

- ・毎朝窓口、寄り添って一緒に考える人を置く。立ち上げに必要な行政などへの書類作成。運営に必要な会計

- ・処理方法、税金関係など、各種手続きなどの事務作業の研修。詳しく教えられる人材も必要。
- ・設立に必要な資料を準備できる専任の貸付制度。資料や制度的なことでも専門家のアドバイスが受けられる仕組み。事業所としての連絡の作り方なども。
- ・どんな支援が必要か、立ち上げようとしている人がまず声を上げ、自分たちの現状をしっかりと把握して、周りにアピールすることが必要。
- ・連合会との連絡を定にし、どんなサポートが必要か計画的に考えていく。
- ・既存のワーコレの情報を教え、見学してもらう。立ち上げて1年くらいはフォローする。
- ・立ち上げようとする地域の特性、利便性を把握することが大事。
- ・申請書や手続きなど決算書作成の相談、チラシ作成。しっかりした事業計画を作る手助け。
- ・一つの職種やエリアの壁を越えて、相互連携・支援できる仕組み・体制を連合会内に作ること。
- ・事務局機能の強化と専門性が必要。
- ・基本的なマニュアル作り。資料・規約・会則、過去の設立時の議事録のコピーなどを配布。
- ・立ち上げる前からのこまめな研修。立ち上げてからのステップアップの研修が大切。長期に渡り、常時アドバイスできる人を作ることも必要。

④社会保障、ワーコレ法をどう考えますか？

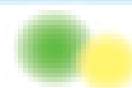
- ・経済的にも自立できるだけの収入を得られて、当然のことながら税金もきちんと払え、社会保障もしっかり加入できるだけの事業収入・分配金が理想。そうなければ若い人も自分の生活を成り立たせられる。夫の扶養範囲を超えて自らが納税者となることは、精神的にも責任を持った労働者・経営者になれると考える。周囲の人に「自分はこのような働き方をしているんだよ」と、わかりやすく説明ができるようにするためにも、ワーコレ法が実現したらと思う。
- ・経営者という立場では、一定の収入（売上）の確保ができて社会的責任が果たせるが、そうならないのが現状。加入は難しい。
- ・社会保障に加入できるだけの事業高がなく、現実には非常に難しい。ワーコレ法についても、自分達の事業や運動を表す規範法を持つことで、雇用契約や社会保障への加入が義務付けられていくのであれば、ワーコレ法で得を守り、どこに向かうべきなのか、これまでの経過も振り返り考える必要があるのではないか。



これから立ち上げるワーコレへの支援

「夢を語ること」ワーコレの仕事をしていく上で大切なことだ。どうしたら楽しく仕事ができるかをメンバーで十分話し合うことが必要。ワーコレは働きにくい人が短時間でも働くことができる仕組みを持っている。ただ職種によって、時間拘束が長い場合もあるため、今の時代にあった環境整備が必要だ。

事業を継続するために、今までの「考え方」「きまり」に縛られず、今の時代に合わせて変えていく柔軟性も必要ではないか。分配金を平等に分けることも話し合いで決めたいし、「この人が自立できるように、後継者として活動できるように」と分配金に大きく差をつけることも話し合いで決めることが可能なのがワーコレ。借借額はバラバラかもしれないが、楽しく事業ができるよう話し合いをしっかりとするのがワーコレのやり方だと



人と人とのつながりがワーコレの強み

「わっふる」のAさんは、「自分の家で住み続けたい。そのためには近所の人と、困った時に助け合える関係性が大事」。そんな思いから、いつかは自宅を開放して、地域の人が自由に集える場にするのが夢だという。難しく考えず、まずはやりたいことからやってみよう。その第一歩として、今年、自宅ではないが、数人の仲間と居場所作りに踏み出したばかり。

受託事業としてデボーを運営する「櫻」のSさんは、一般のスーパーとは違い、デボーは物を売ったり買ったりするだけでなく、生活クラブ副会員との関わりが深いという。たとえば惣菜の人や消費材の配達などで、顔なじみさんとも交流があり、好きな消費材が入荷するとお知らせすることもあるという。古き良き時代のご近所のお店ということだろうか。「スーパーなどでは、レジの人に話しかけたりすることってないでしょ」とKさん。そんなデボーの良さを、若い人につないでいくことが、目の前にドンとある課題だが、これがなかなか難し

い。

ワーコレのミッションとは何だろう、と考えた時、女性が社会に出る・働ける場を作る・集う場を作ることではないかという意見が多く出た。働きにくい人たちが働くため、環境整備をすることも重要。またワーコレで始めたが年齢を重ねるうちに今の仕事が難しくなった時、ステージチェンジできる仕事・働き場を作ることができるのもワーコレではないか、という意見が出た。

各事業所へのアンケートでは、「これから立ち上げるワーコレの支援をどうするとよいか」という問いに対して、①行政などへの書類作成支援 ②運営に必要な会計処理や税、法的なことの専門家との連携 ③業種ごとに相談・指導できる体制 ④経済的な支援（低利の貸付制度など）⑤立ち上げる前と立ち上げてからのステップアップ研修の重要性、などが上がった。受託事業をうけて事業高が大きくなる事業所と、事業高の小さいことが予想されている事業所により、支援内容は異なると思われる。連合会が新規事業所の設立経過を把握し、それを資料としておくことで、（事業所も簡単なものを準備して提出してもらう）次の新規事業所に提示が可能となるのではないかと。一部の役員だけが把握するというのではなく、経験の蓄積を資料として提示できるような事務局の機能と、それにきちんと対価を払うことが必要だと思う。（W.Coわっふる 飯沼奈津子）

い。

研修会で「ともっと」の和直さんは、ワーカーズカフェを開いたり、生活クラブ運動グループ・東村山地域協議会として、生活クラブ、生活者ネットワーク、W.Coの意志ある個人が参加し、同じテーブルで自由に話し合い、課題を政策に生かしたり、自治を促げる活動をしていると話された。

佐倉市でも、今問題になっている環境問題や使い捨て社会に一石を投じるリユース倉庫（W.Co風車）の使用や、ゴミ処理場「キエーロ」（W.Co沼津水馬が取扱い窓口）の推進など、行政に対しても市民ネットワークと連携して行っている。また、年に数回、地域のW.Coや、風の村の「とんぼ舎」、生活クラブの移動販売なども参加して「ワーコレマルシェ」「風車市」も開いている。いつでも互いに協力し合える関係は心強い。この連携をもっと生かして、私たちがめざす街づくりにつなげていければと思う。（W.Co風車 猪俣悦子）